

分業率は55%、薬剤師の不足も

初めに医薬分業の現状と、それに対する薬局・薬剤師などのインフラ整備状況を数字で見よう。

日本薬剤師会が集計している「処方せん受取率」（いわゆる医薬分業率）は、2006年1月で55.6%となった。05年度を通した平均でも、54.1%に達している。分業率が5割を超えた段階から、伸び率が陰りが見え始めてきたとはいえ、市中へ出回る処方せん枚数は、今も毎年3~4%ずつ増加している。これに伴って保険薬局数も、「処方せん40枚につき薬剤師1人」という規定により、従事する薬剤師数も増加を続けている。

05年度末現在で、全国には5万1200軒を超える保険薬局があり、これは前年度に比べ600軒余り、1.3%の増加である。人口10万対の薬局数は40.1となっている。

ただし薬局数には地域偏在があり、概して分業率が低い県では、人口10万対の薬局数が低く、薬剤師の数も少ないという傾向が見られる。特に首都圏、あるいは同一県内でも都

保険調剤薬局

いま、薬学生の就職先として最も多いのは保険薬局である。卒業後の進路としては27%前後、大学院への進学者を除けば、実に40%近い学生が薬局を勤務先として選んでいる。医薬分業率は現在、全国平均で55%に達しており、病院・診療所に通院する患者の2人に1人は、薬局で処方せん調剤を受けている計算になる。分業率は今後もさらに上昇すると考えられ、処方せんの受け皿である保険薬局の役割も重要性を増してくる。また、最近では「入院から在宅へ」という医療提供体制の変化を受けて、在宅医療に対する薬局の取り組みも広がりつつある。これからの薬局・薬剤師には、地域医療の第一線を担う者として、熱い期待が寄せられている。

多様化する薬局の機能・事業
地域医療への貢献に大きな期待

市部に薬剤師が集中するという状況が続いており、郡部などには深刻な薬剤師不足に陥っている地域もある。薬剤師が雇用できないために、閉店に追い込まれる事例も見られるほどだ。

調剤薬局チェーンの一部は“医薬コンサルティング”分野へも進出し、いわゆるシステム的に分業を加速させるアプローチも行っている。



調剤にかかる明細書を記入、すべての患者さんに渡す

広く地域住民のヘルスケア担う

また、“地域密着型の薬局”も健闘している。地域住民との強い絆、信頼関係を持つ「かかりつけ薬局」として、患者が持参する処方せんを広域に取り扱う形だ。従来の調剤薬局の型にとらわれることなく、地域の“ヘルスケアステーション”として、疾病予防の支援、健康情報の発信など、「独自の価値」を強調する薬局も増加しつつある。

在宅医療の先進地域を中心として、「在宅患者の服薬全般に貢献する薬局」も登場してきた。地域の開業医（主治医）、後方支援病院、あるいは訪問看護師などとの連携が基本となるため、プロフェッショナルとしての高い資質を要求される。地域医療システムの中で、確固たる地位を築き上げ、住民や他の医療関係者から厚い信頼を得た薬局・薬剤師も現れている。

入院医療から地域医療へ、さらに軽医療や健康増進に至るまで、薬局・薬剤師の機能は広がりを見せている。病院薬剤師の世界では、癌化学療法や感染制御など、専門分化した薬剤師の養成が進められているが、薬局・薬剤師に関しても慢性疾患を中心とした専門薬剤師制度の確立が、具体的な話として浮上してくるのも、そう遠い話ではなさそうだ。

台頭著しい大手調剤チェーン

保険薬局の中で、特に台頭が著しいのは大手調剤薬局チェーンであり、各社とも積極的な出店攻勢をかけている。しかし「分業先進地域」を中心として、従来のような大型門前型の出店パターンは難しい状況になっている。大病院のほとんどが既に処方せん発行へ踏み切っており、門前には調剤チェーンを中心に保険薬局がひしめく状況となっているのに加え、処方せんが地域へ分散し、新規に出店しても採算を見込めるケースが少ないためだ。

一方で、病院勤務の医師が診療所を開業するケースが増えている。しかし1軒の診療所だけを相手にした出店には様々なリスクが伴うため、特に株式公開するような大手のチェーン調剤薬局の場合は、出店には慎重な姿勢だ。そこで複数の開業医を集めて「医療ビル」「医療モール」を形成し、そこに出店するという新しいタイプの事業展開が盛んになりつつある。

皮膚を科学するブティックカンパニーへ

maruho マルホ株式会社

「皮膚を科学するブティックカンパニー」
ブティックとは品質の高い製品を扱う専門店のこと。
マルホは今後も皮膚と薬のよい関係を追求し、
人々のたゆまない健康に貢献していきます。



会社概要

設立 昭和24年10月
資本金 3億8,253万円
代表者 代表取締役社長 高木 幸一
売上高 457億円(平成18年度)
従業員数 866名
事業内容 医薬品等の研究開発・製造・販売
提携先 ドイツ2社、中外製薬、第一アスピオファーマ、資生堂ほか
事業所 本社/大阪
研究所/京都
工場/彦根
支店/札幌・仙台・大宮・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
営業所/19都市
出張所/20都市
駐在事業所/ドイツ

募集要項

募集職種 MR(医薬情報担当者)、研究職、臨床開発職、生産技術職
初任給 (平成18年4月入社者) 大卒、MR 240,300円
諸手当 通勤交通費全額、営業外勤手当(初年度月額2,800円別途支給)、その他
昇給 年1回(4月)
賞与 年2回(6月、12月)
休日・休暇 土・日・祝、夏季・年末年始・GW連休リフレッシュ休暇・MR特別休暇4日(平成17年年間休日実績122日)
福利厚生 制度/財形貯蓄・企業年金・社員持株・国内外留学・借上社宅・公的資格取得奨励・自己申告施設/淡路島海の家・仁川倶楽部・リゾートクラブ法人会員

就職についてのお問い合わせ

URL <http://www.maruho.co.jp>

本社人事部 〒531-0071 大阪市北区中津1丁目5-22 TEL ☎0120-189004